

千葉大生の 学習状況・学習時間・学習環境利用の現状 —学生アンケート調査からみた学習状況分析

○白川優治

國本千裕・岡本一志・庄司三千子

他 アカデミック・リンク・センター構成員

報告の概要

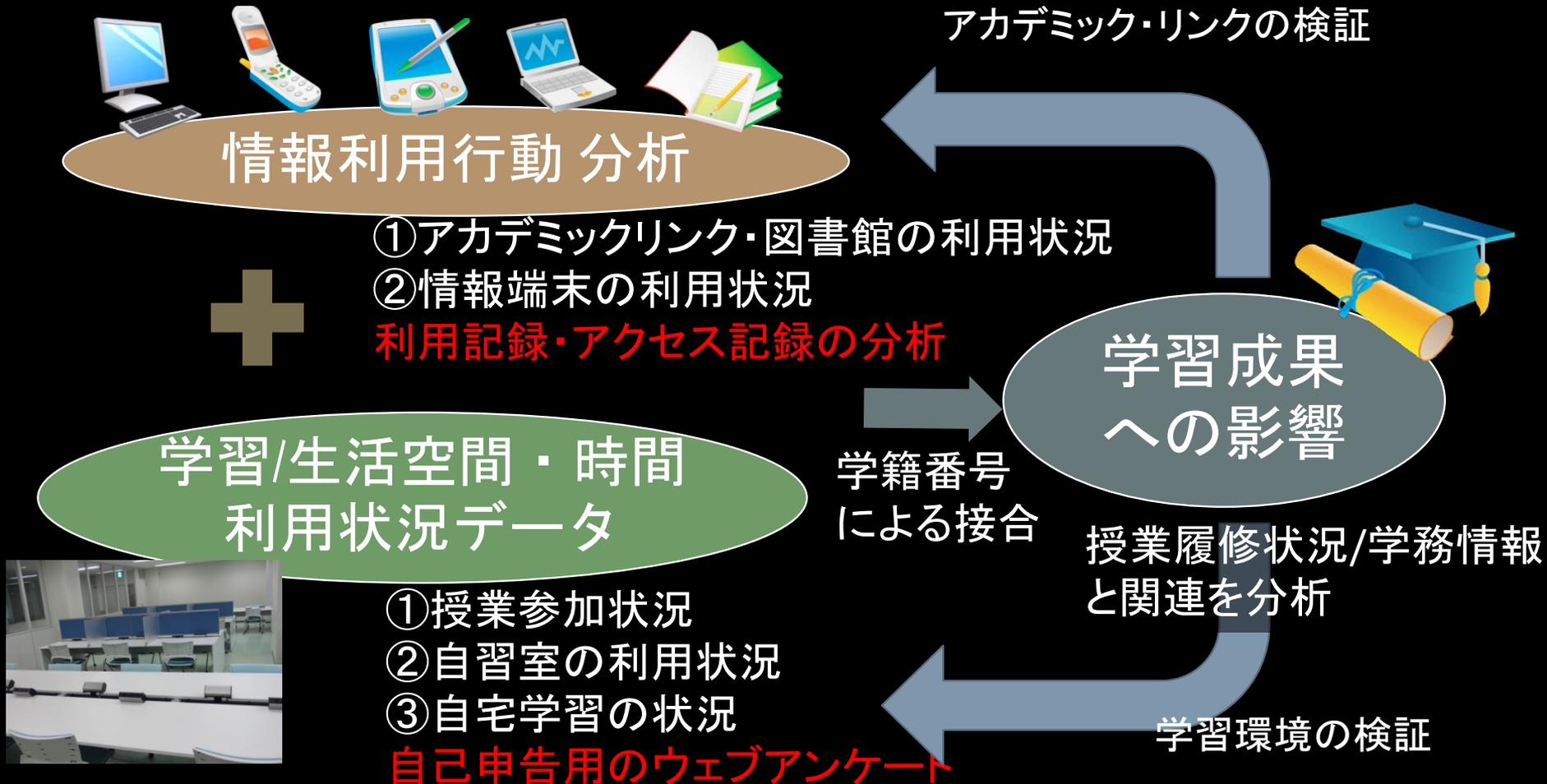
- (1) 本報告の目的
- (2) 分析に用いるデータとデータ特性
 - ①分析に用いるデータ
 - ②データ特性・信頼性
- (3) 学習状況について
- (4) 学習時間について
- (5) 学習環境の利用状況について
- (6) まとめ

(1) 本報告の目的

- 本報告の前提となる問い
 - アカデミック・リンクの空間・諸活動は、学生の学習活動・学修成果にどのように影響しているのか。
- 経過
 - 2011年4月 アカデミック・リンク・センター設置
 - 2011年6月 第1回 アカデミック・リンク・セミナー 
 - 「アカデミックリンクが活動していくなかで、それが教育の成果、学習の成果としてどのような効果があったのかを検証するプロジェクト」
 - 「学生がアカデミックリンクという場所をどのように利用して学習をしていくのか、その結果どのような学習成果をあげているのかを、情報利用行動という観点と学習生活環境の利用状況という観点から調査を行ったうえで検証していく」
 - 2013年3月段階の中間報告

情報利用行動定点観測プロジェクト STUDENT BEHAVIOR OBSERVATORY

学生の学習行動と学習成果の関連を、情報利用行動と学習/
生活空間の利用状況から継続的・横断的に検証する



(2) ①分析に用いるデータ

情報利用行動 分析

- 附属図書館の入館記録 (2012・2013年度)
- 附属図書館での図書貸出記録 (2012・2013年度)

附属図書館

附属図書館

学習/生活空間・時間利用状況データ

- 千葉大学全学生を対象とした独自webアンケート (2012・2013年度)

アカデミック
リンクセンター

授業履修状況/学務情報

- 学士課程在籍全学生の履修単位数・GPA・成績状況 (2011・2012年度)
- 学士課程在籍全学生の入学時の入試記録 (2011年度)

教務課

入試課

学籍番号を匿名化コードに変換した、**全データを結合した分析パネルデータセット (n=13703)** を構築

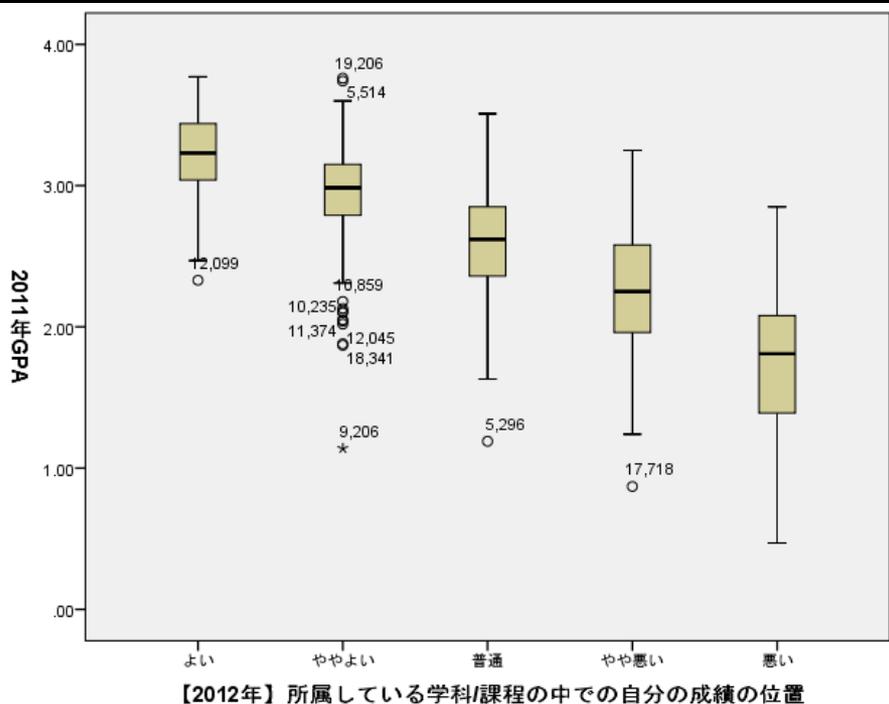
(2) ①本報告のキーデータ

- 千葉大学全学生を対象とした独自webアンケート「千葉大学 学習状況・情報利用環境調査」 
- 対象：千葉大学に在学する全学部学生
- 質問項目・内容：
 - A) 学習・生活空間の利用に関する設問
 - B) 情報利用行動に関する設問
 - C) 千葉大学附属図書館の利用状況
- 調査時期・方法・回答数

	2012年度調査	2013年度調査
調査時期	2013.01.21—03.10	2014.01.10—03.10
調査方法	REAS(リアルタイム評価支援システム：放送大学提供)を用いたウェブアンケート	REASと千葉大学Moodle（千葉大学の全学LMS）の2つのシステムによるウェブアンケート
回答数（本分析対象）	1,026	928

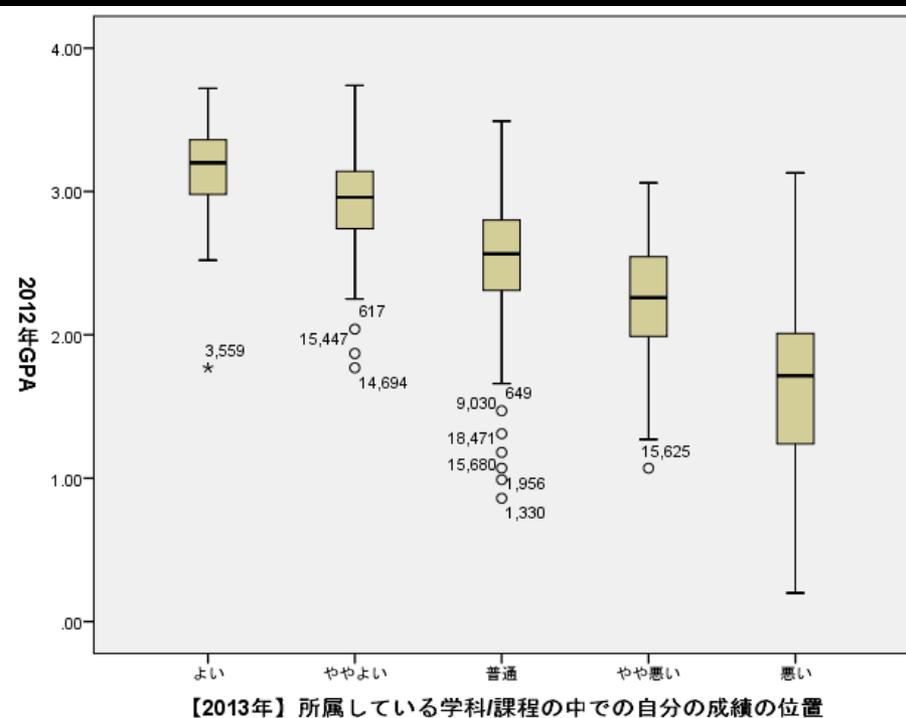
(2) ②データ特性・信頼性

- データの信頼性：



2012年調査

「調査における成績の自己認識」



2013年調査

(調査回答) × GPA (客観データ)

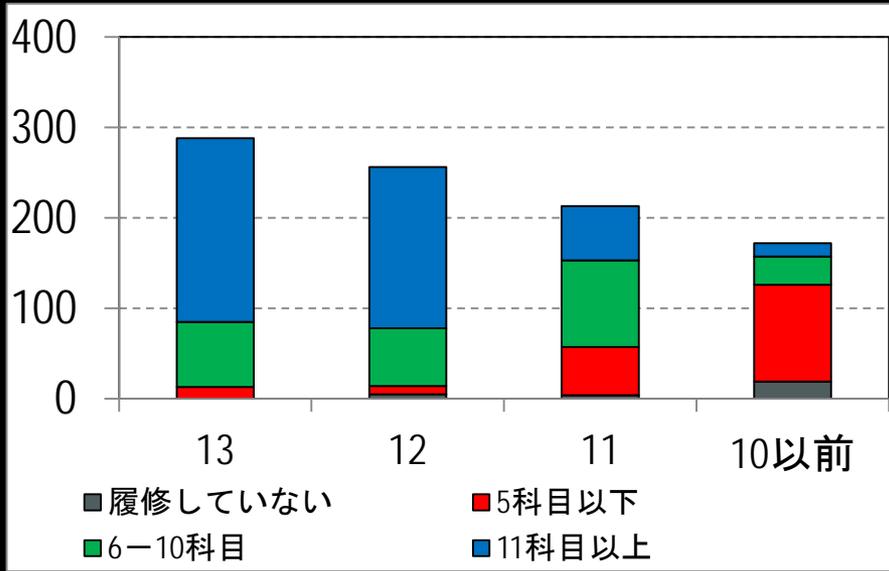
(2) ②データ特性・信頼性

- データ特性
 - 回答者は、平均的な千葉大生よりも
 - 成績がよく、履修授業を精選している。
 - 図書館にもよく来館し、本を借りる頻度も高い。
- データの信頼性
 - 他の学内調査・客観データと比較する時、データの傾向は一致しており量的分析の対象として回答は信頼できる
- 以降の分析では、2013年調査を主に用いる。ただし、分析の必要に応じて2012年調査を用いる。

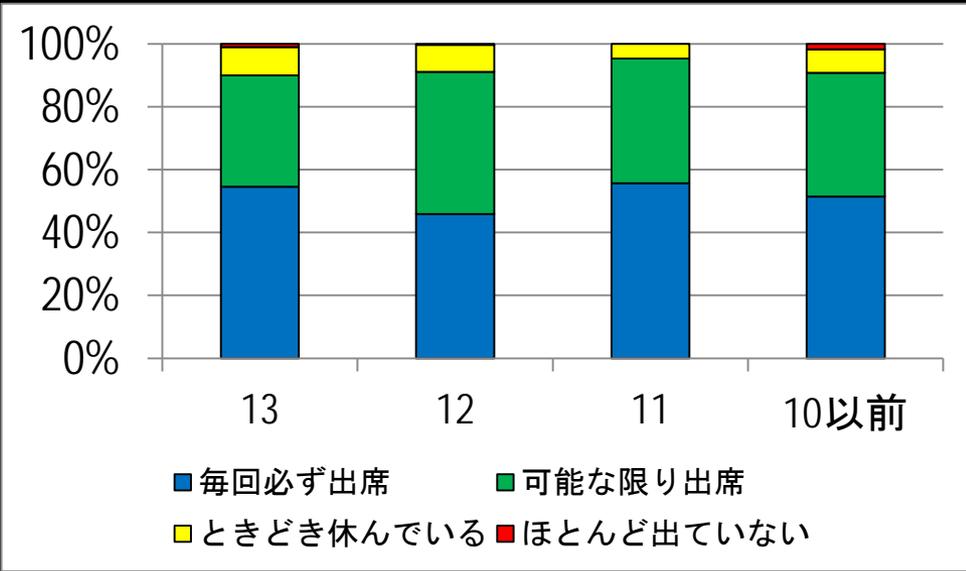
(3) 学習状況について

- 学習状況に関する問い
 - 学生は
 - ①どのくらい授業を履修し、授業に対して、どのように臨んでいるのか。
 - ②どの程度、課題（レポート・試験）を受けて、その課題に対して何を頼りに学んでいるのか。
 - ③これらの学習状況は、大学生活を送る中で変化していくのか。

(3) 学習状況について①

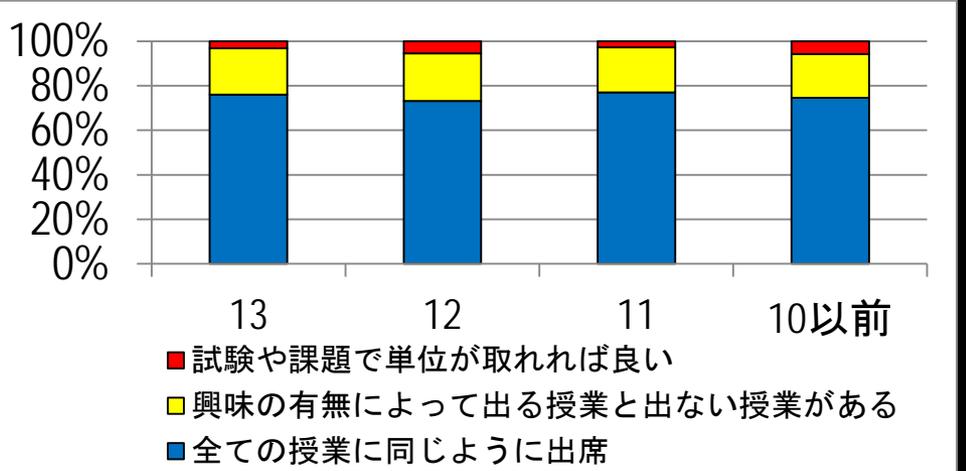


【13調査】履修科目状況 × 入学年



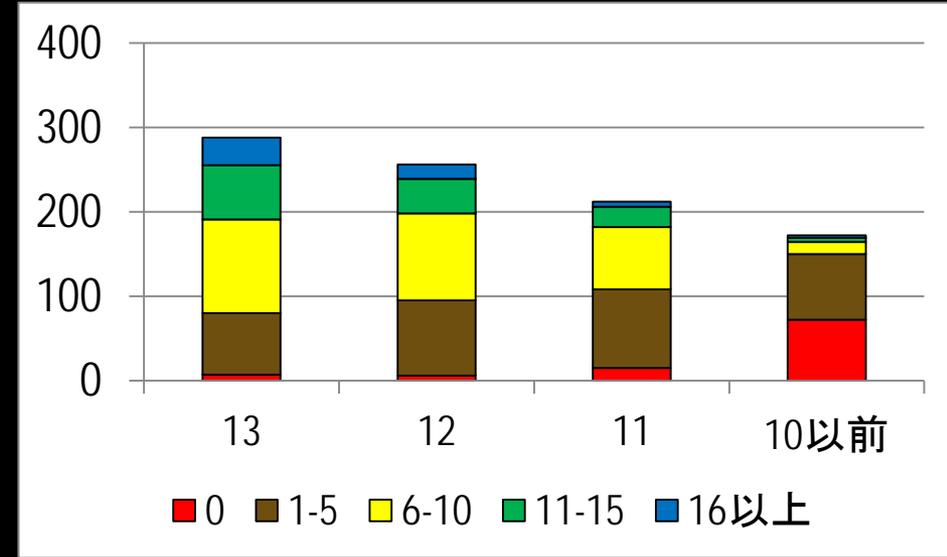
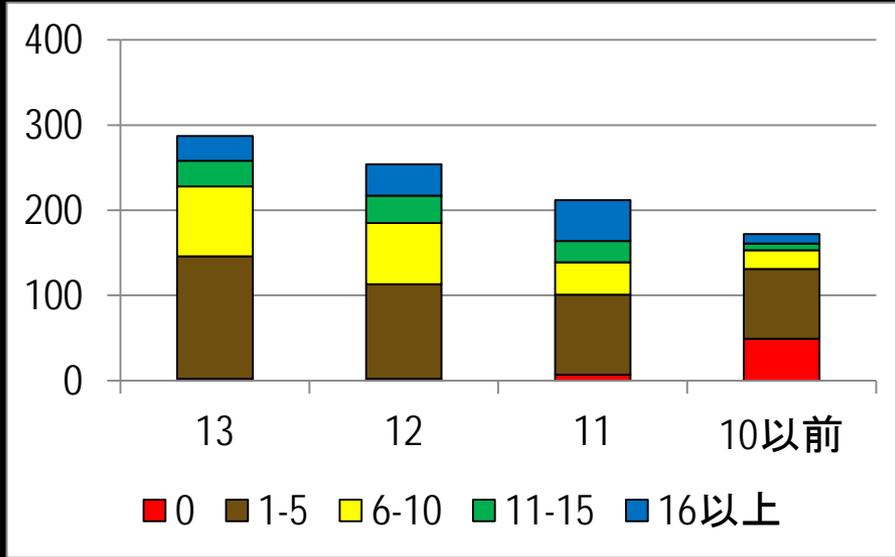
【13調査】授業への出席 × 入学年

- 授業履修の状況は学年ごとに減少
- 授業に対する姿勢は、学年による変化はない



【13調査】授業への態度 × 入学年

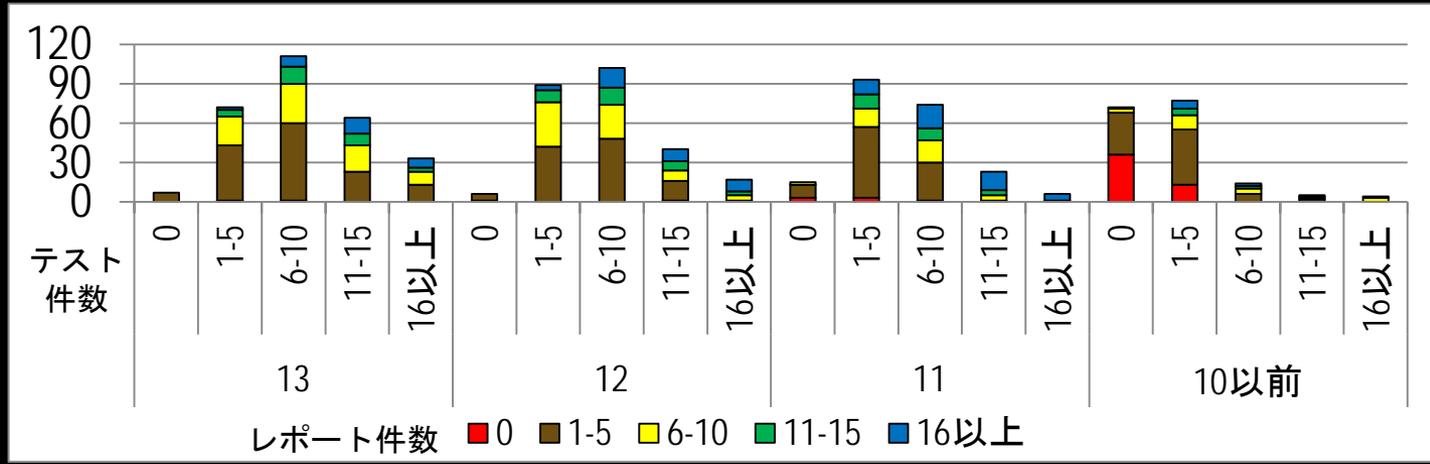
(3) 学習状況について②



【13調査】 前学期のレポート件数×入学年

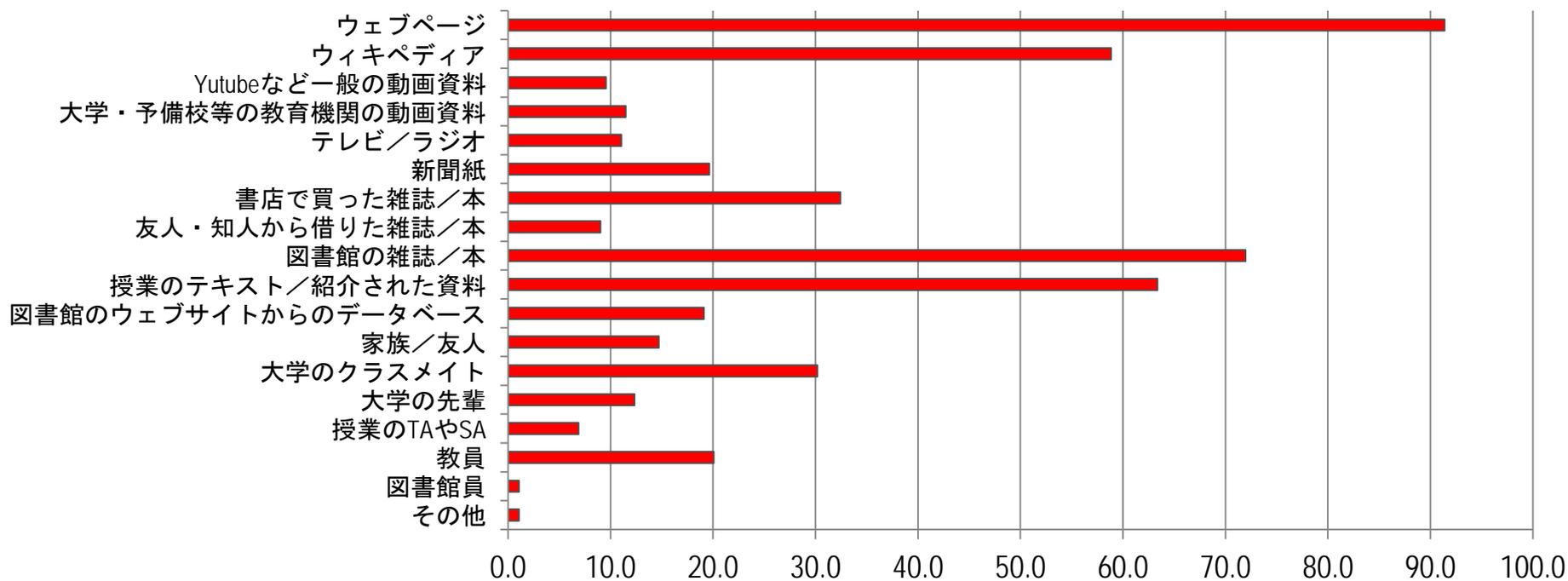
【13調査】 前学期のテスト件数×入学年

● 学年ごとに課題の数は減少

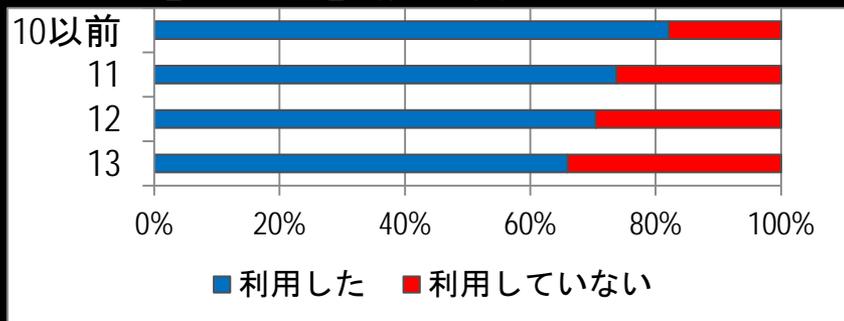


【13調査】 前学期のテスト+レポート件数×入学年

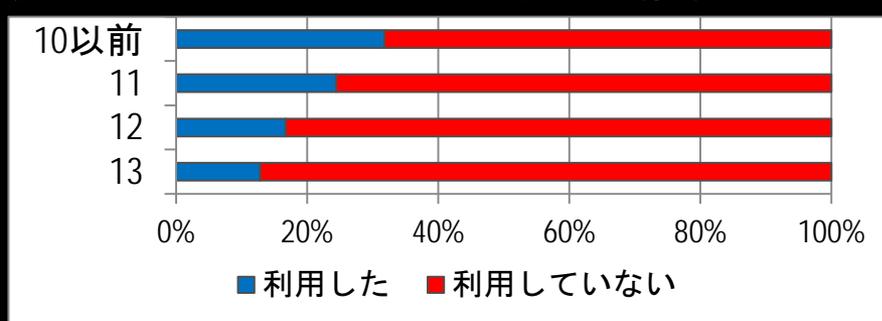
(3) 学習状況について③



【13調査】 授業課題（レポート／発表等）を行うときに利用した情報源



【13調査】 図書館の雑誌／本

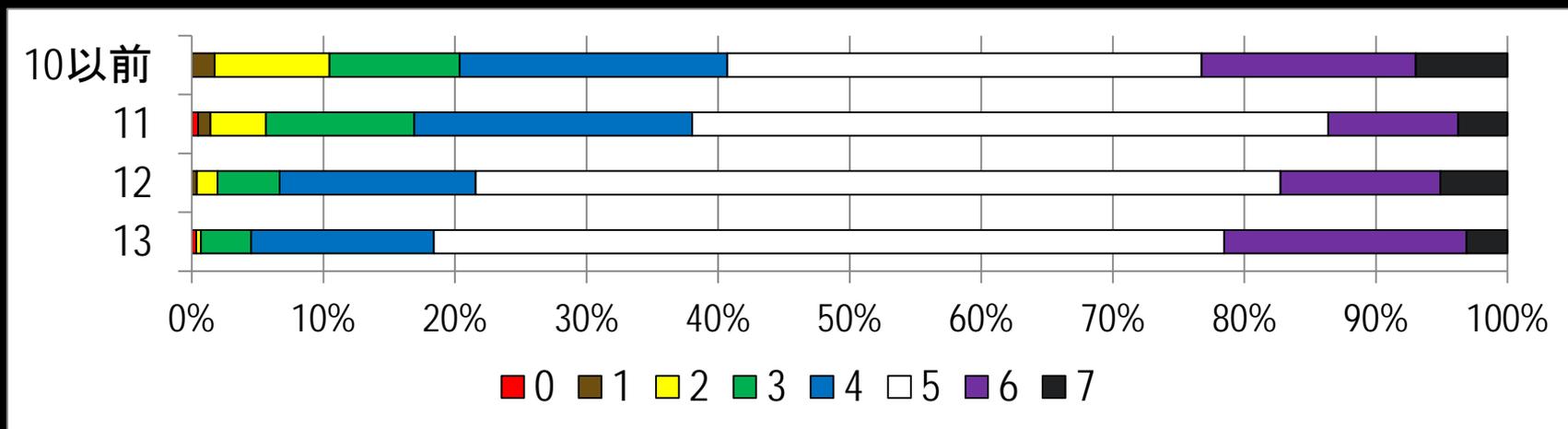


【13調査】 教員

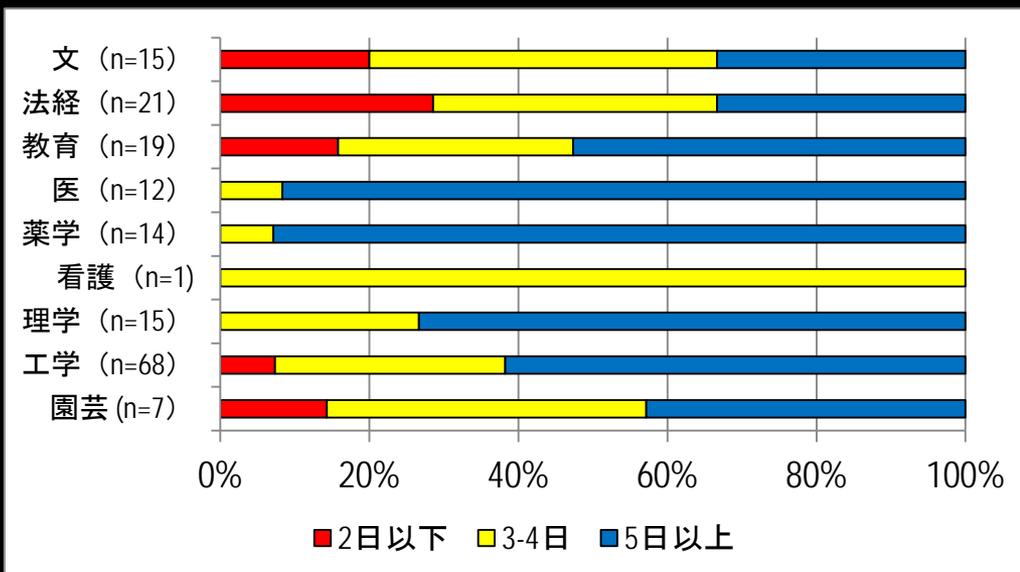
(4) 学習時間について

- 学習時間に関する問い
 - 学生は
 - ①大学にどのくらい滞在しているのか
 - ②日常的にどのくらいの時間、学習しているのか。
 - ③これらの学習時間の状況は、大学生活を送る中で変化していくのか。

(4) 学習時間について①

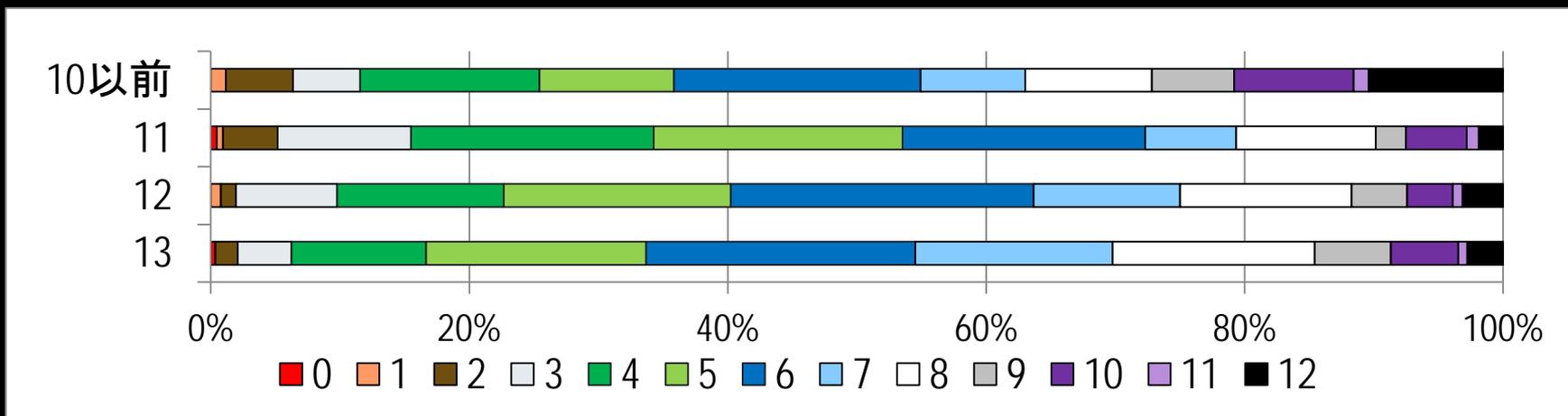


【13調査】 授業学期中に平均的に大学にくる日数 (週)

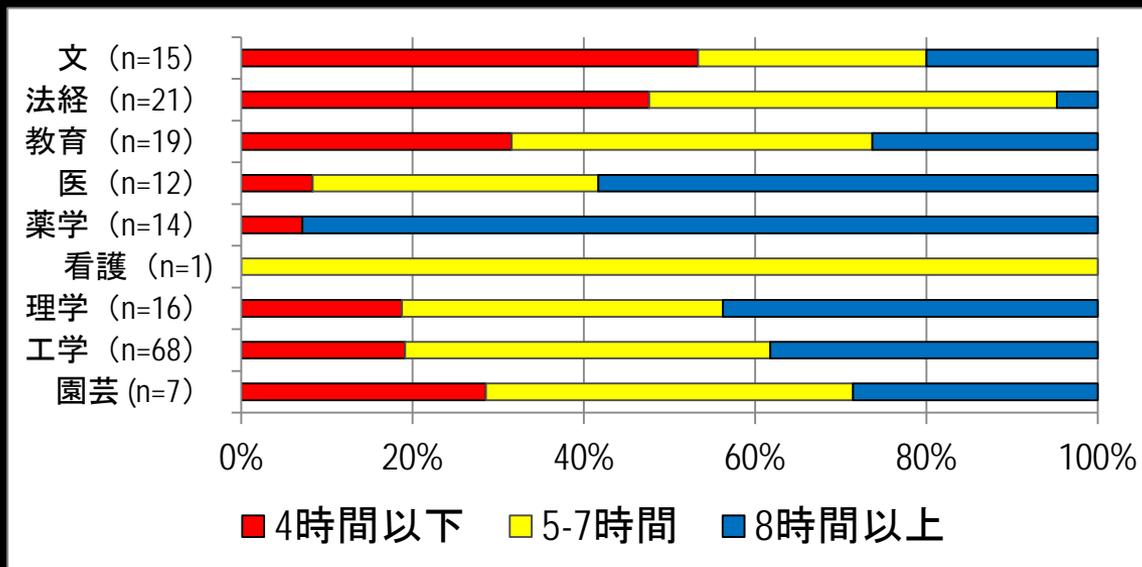


【13調査】 10以前入学者の学部別状況

(4) 学習時間について①

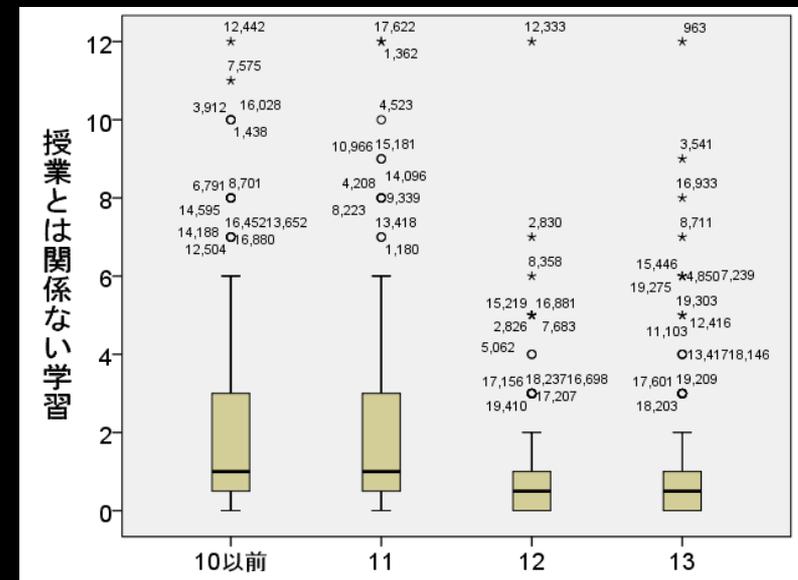
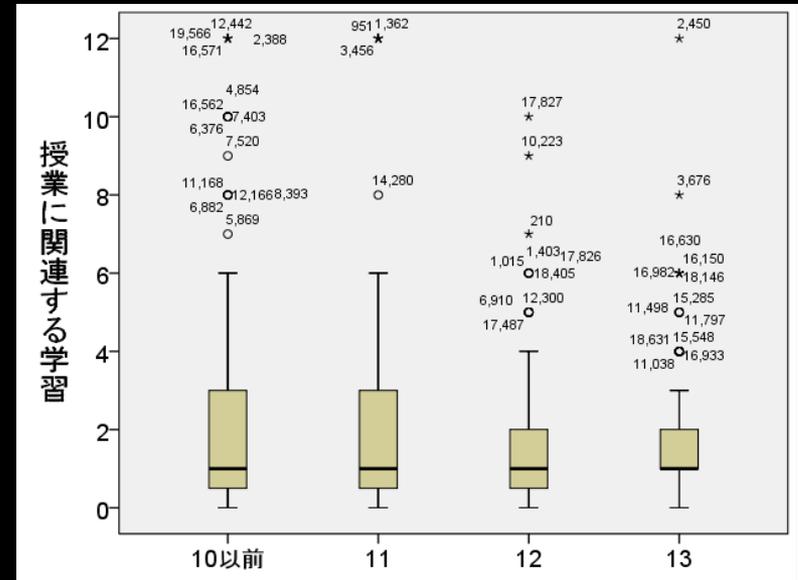
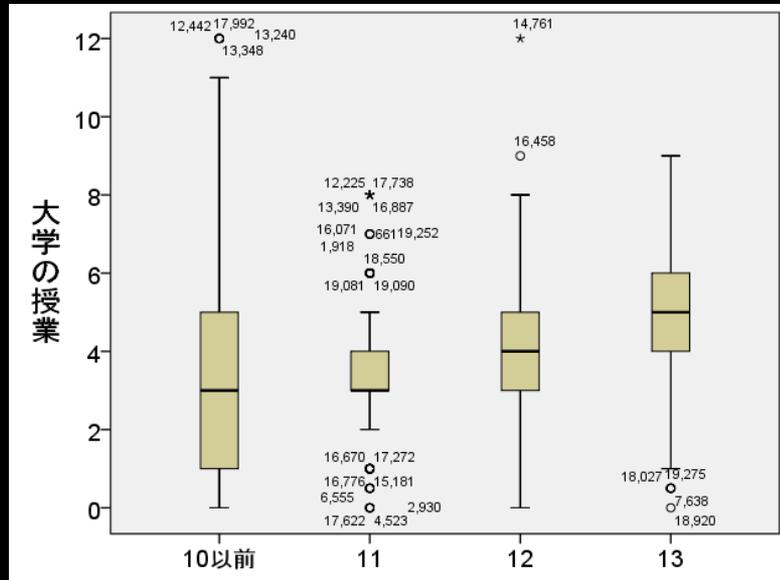


【13調査】 授業学期中に平均的な日の大学の滞在時間（時間）



【13調査】 10以前入学者の学部別状況

(4) 学習時間について②

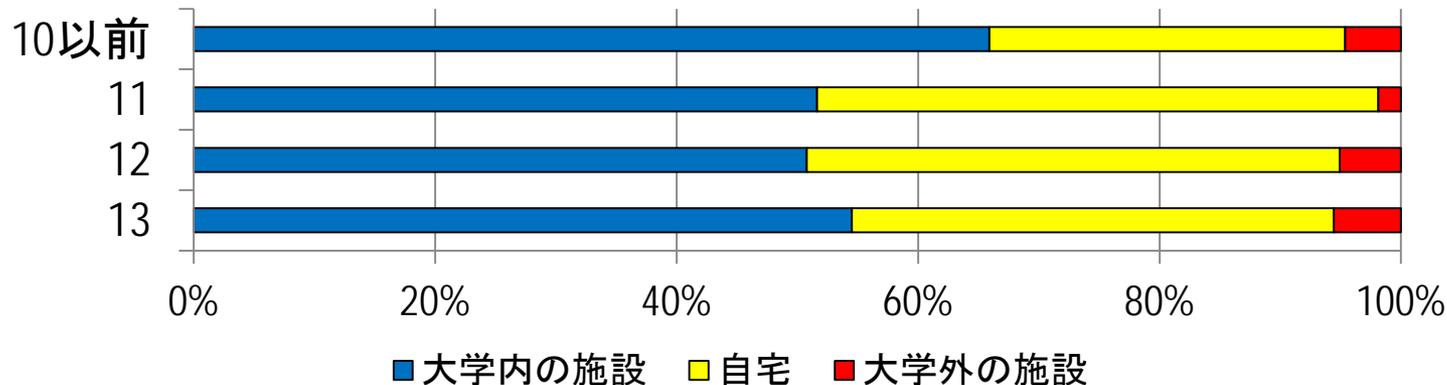


- 1年次は授業中心の学習
- 3年次以降、「授業外の学習の個人差」が広がる

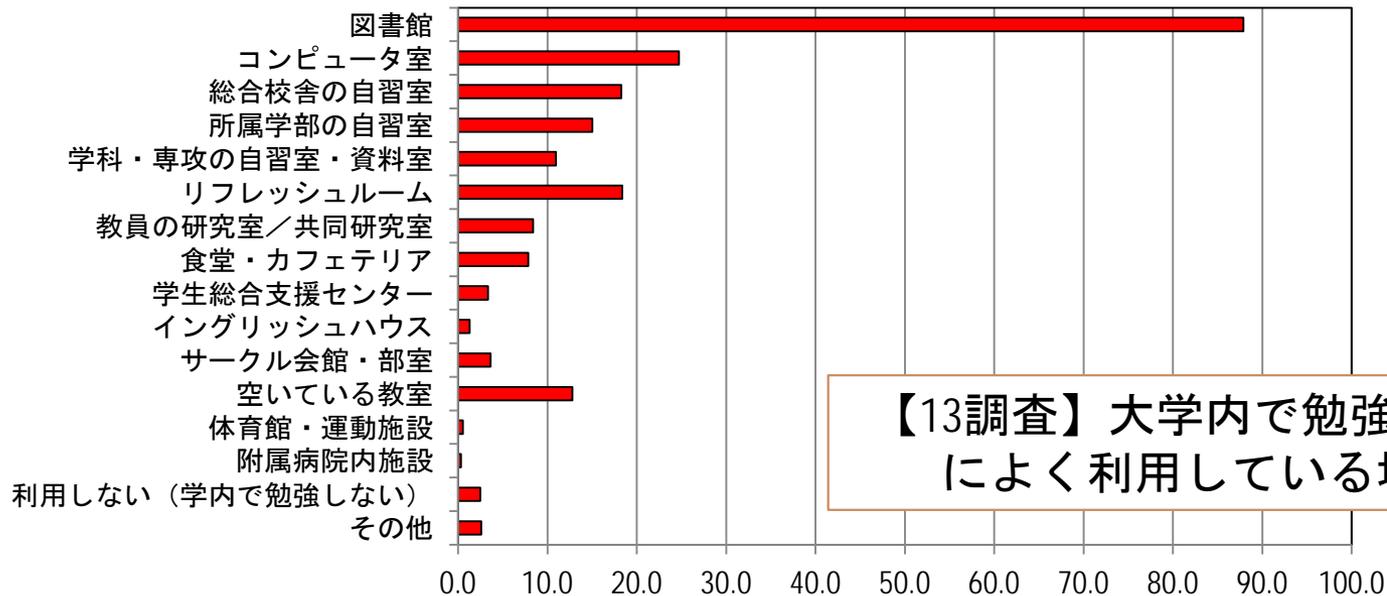
(6) 学習環境の利用状況について

- 学習環境の利用状況に関する問い
 - 学生は
 - ①大学の学習環境をどのように利用しているのか
 - ②附属図書館をどのように利用しているのか。
 - ③学習環境利用には状況は、学年等で違いがあるか。

(6) 学習環境の利用状況について①

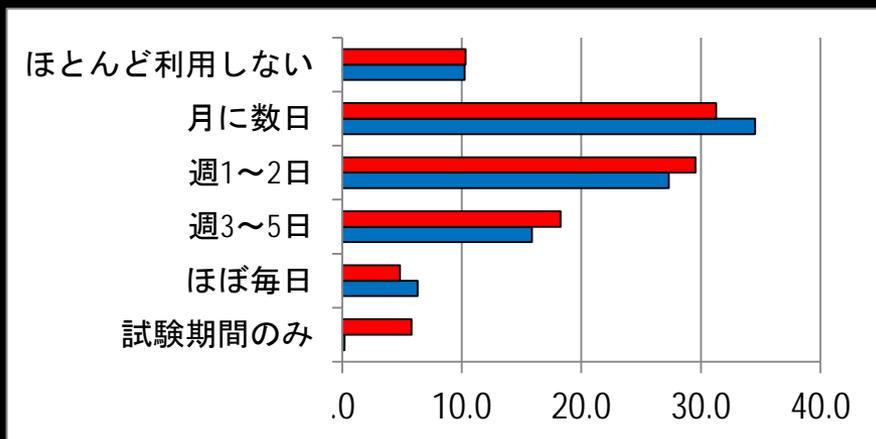


【13調査】 授業期間中に勉強する時間が長い場所

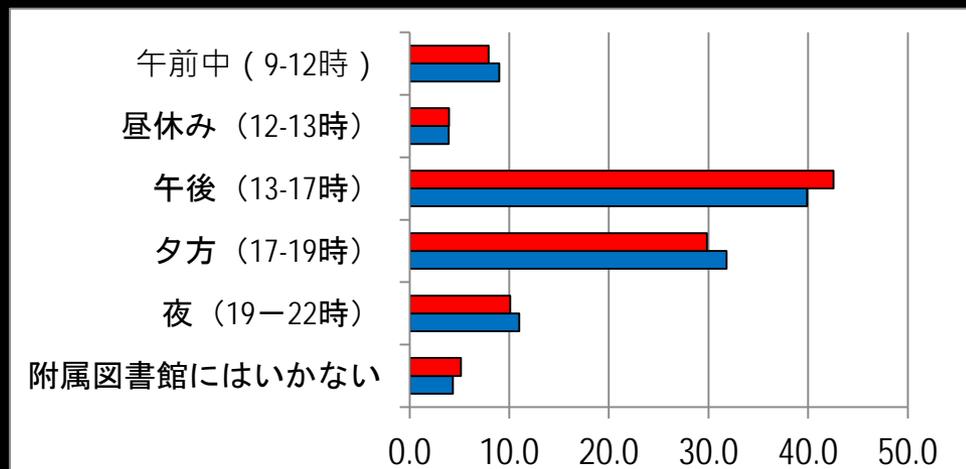


【13調査】 大学内で勉強する時によく利用している場所

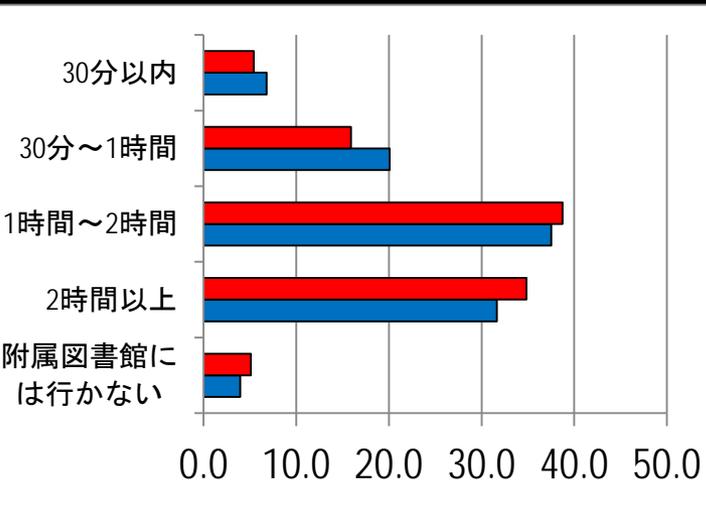
(6) 学習環境の利用状況について②



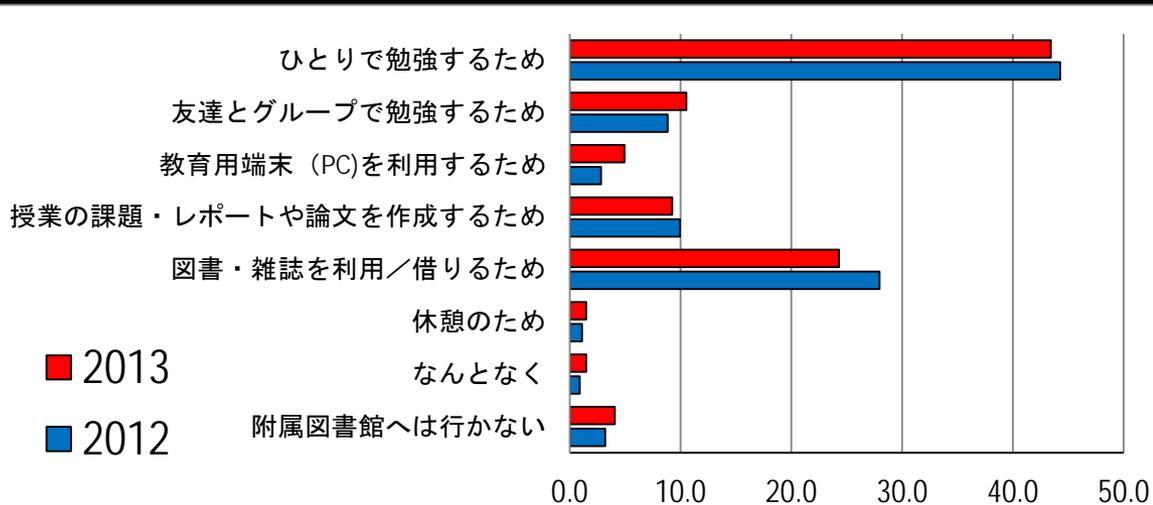
【13/12調査】 附属図書館の利用頻度



【13/12調査】 附属図書館によくいく時間帯

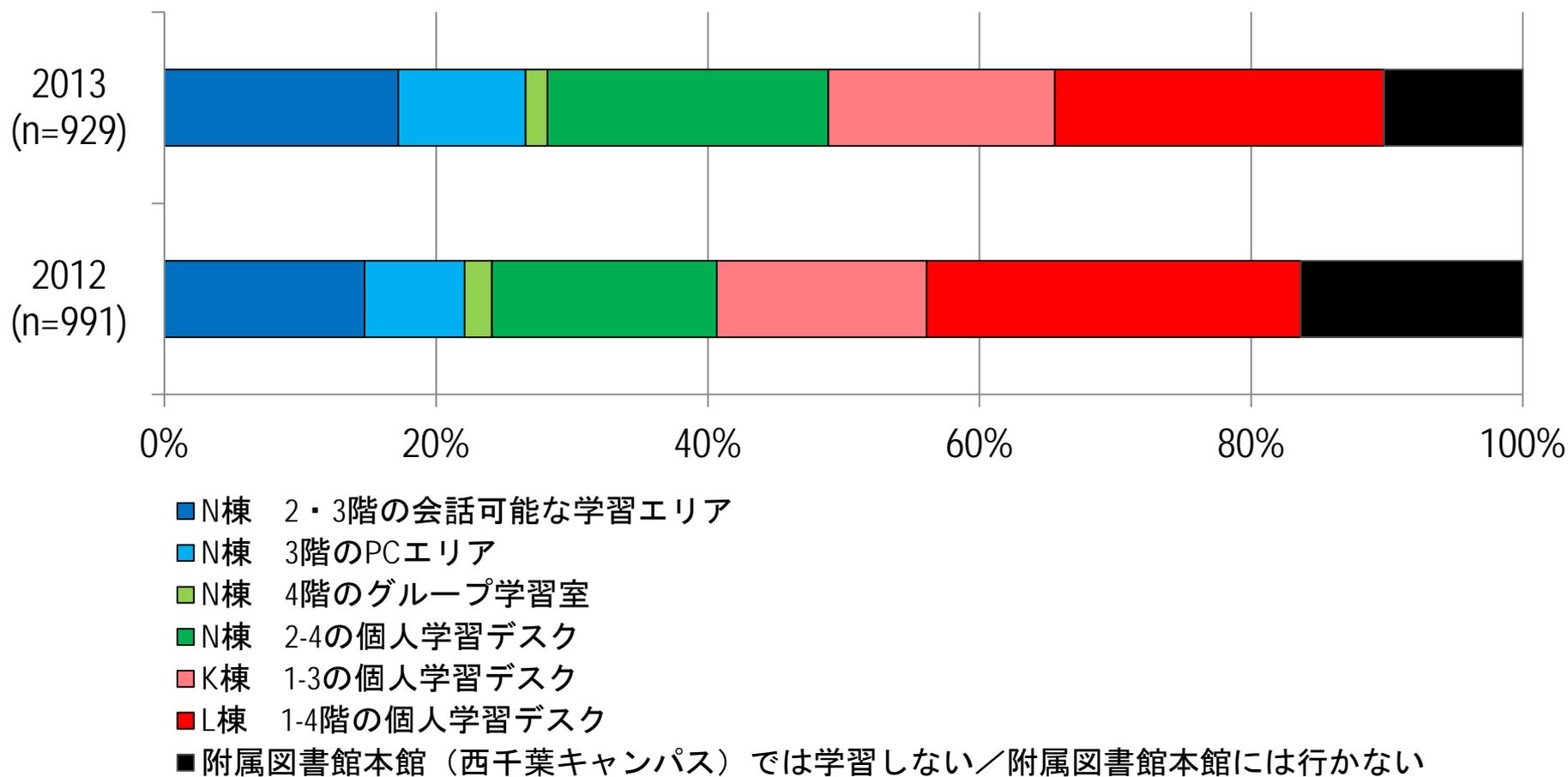


【13/12調査】 附属図書館での滞在時間



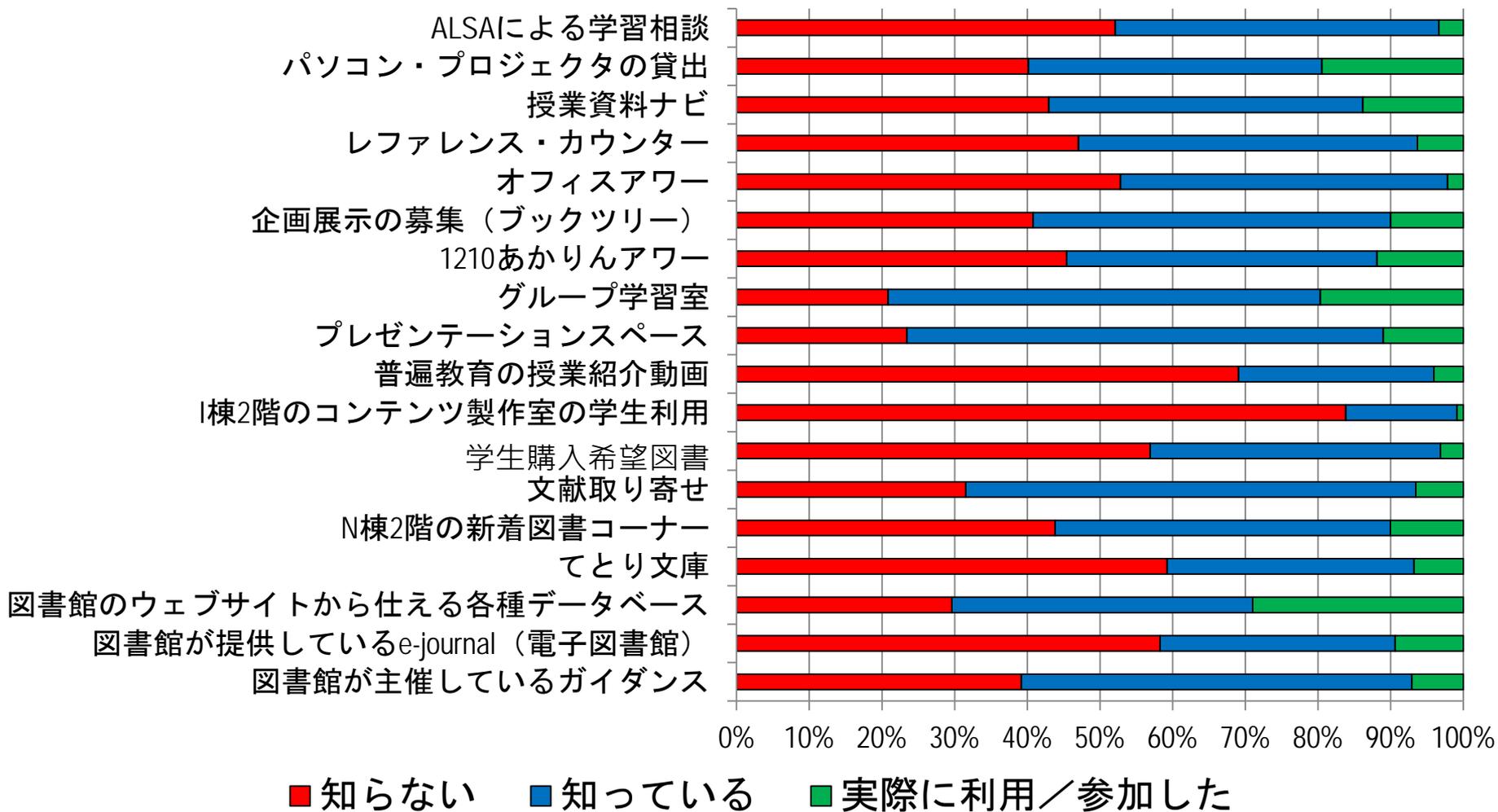
【13/12調査】 附属図書館の主な利用目的

(6) 学習環境の利用状況について②



【13/12調査】附属図書館で最も好ましいと思う場所

(6) 学習環境の利用状況について②

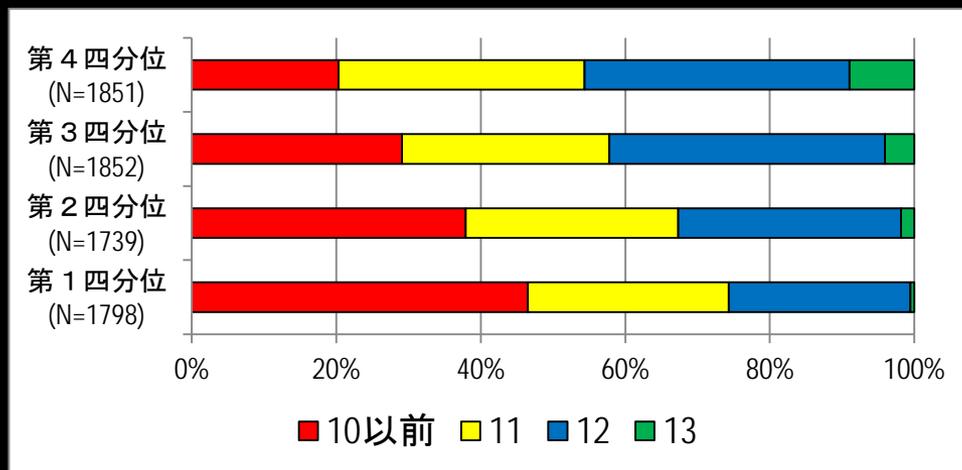


【13調査】 アカデミックリンクセンター・附属図書館が実施している
企画・サービスの認知度・利用状況

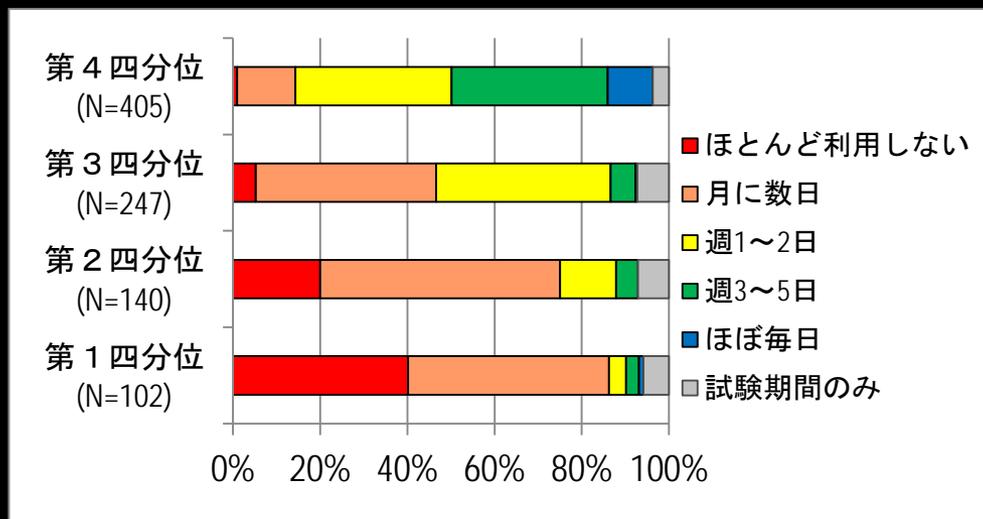
(6) 学習環境の利用状況について②

附属図書館の入館日数 (2013年)

N	7254	
平均値	28.591	
平均値の標準誤差	.3561	
中央値	18.0	
最頻値	1.0	
最小値	1.0	
最大値	265.0	
パーセンタイル	25	7.0
	50	18.0
	75	40.0



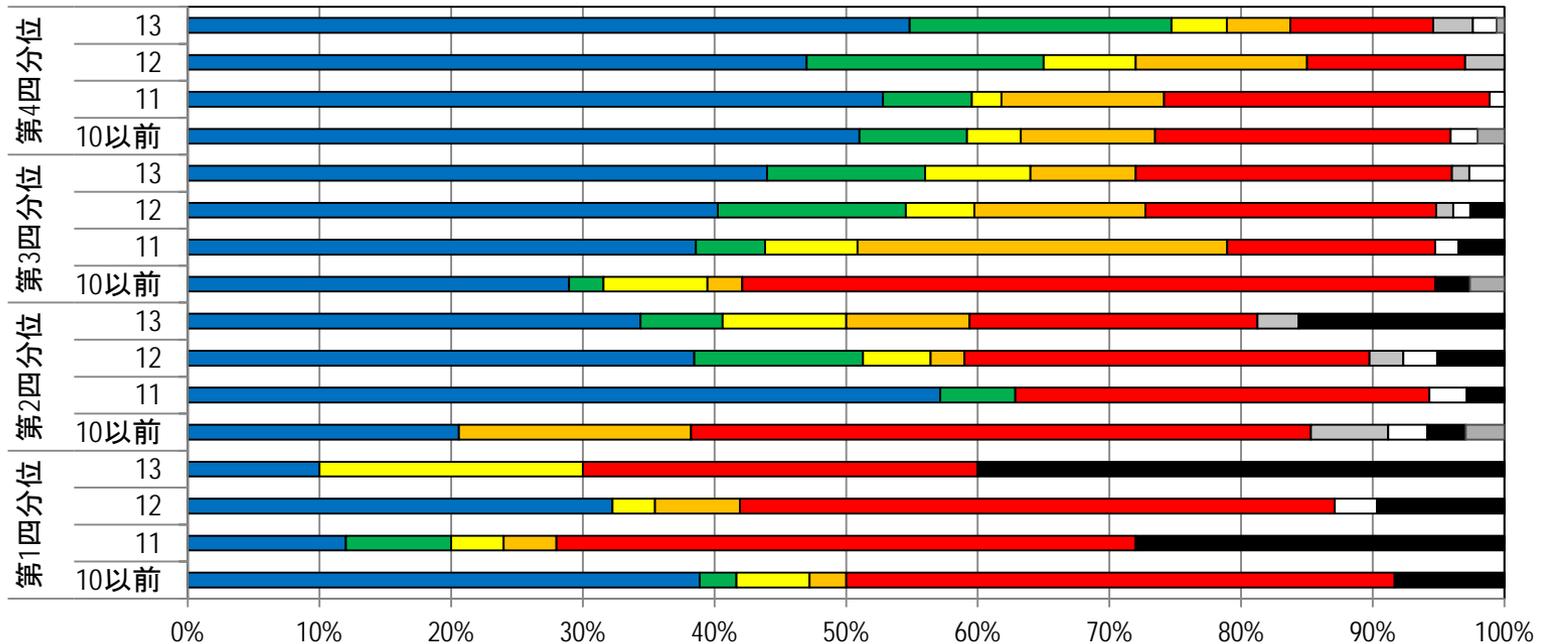
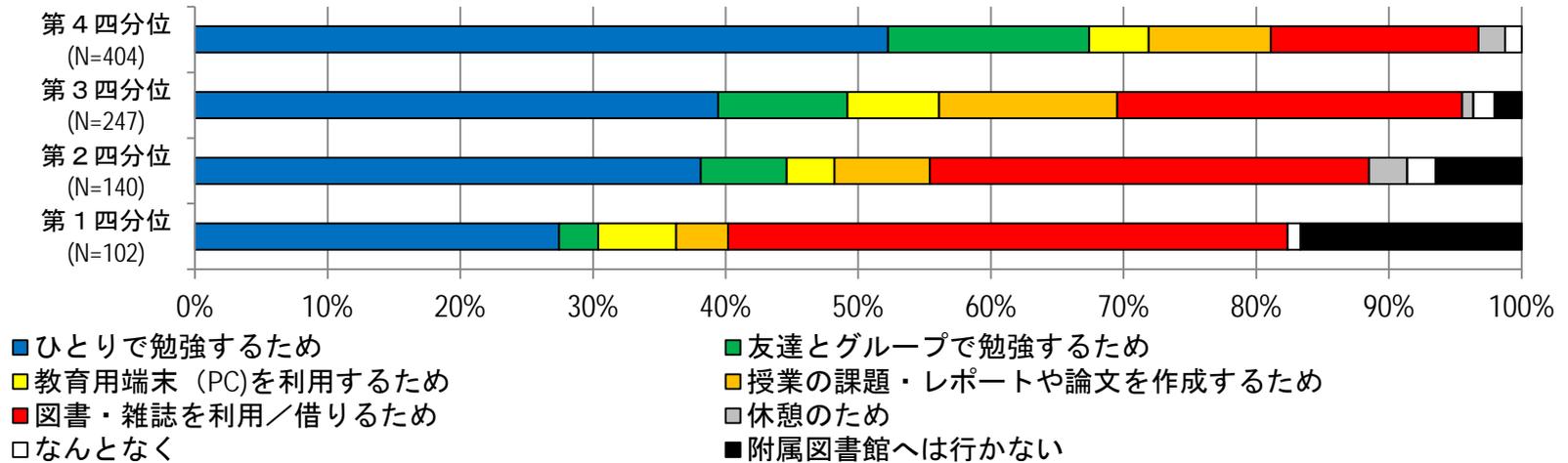
入館日数四分位 × 入学学年



【13調査】 附属図書館の利用頻度 × 入館日数四分位

(6) 学習環境の利用状況について③

【13調査】 附属図書館の利用目的×入館日数四分位



(6) まとめ

● 学習状況・学習時間について

- 学年進行とともに、授業中心の学習から、授業外の自主学習中心の学習に変化する。
- 授業に対する姿勢は学年による変化は少ない。
- しかし、自主学習については、個人差が大きい。また、学部間の相違も考慮する必要がある。

● 学習環境の利用状況について

- 新しい学習空間（会話可能エリア）は学生に受け入れられている。他方、静かな学習空間を好む学生もほぼ同じ割合存在する。
- アカデミックリンク設置前後の入学年で、図書館の利用行動に違いがみられる。グループで学習できる場所という意識が図書館来館につながっている可能性がある。
- とはいえ、アカデミックリンクセンター・附属図書館の各種企画・サービスの認知度は高いとは言えず、組織的な努力が必要である。